

研究課題名	2017-049 IABP の至適設定に対する脈波速度の影響
実施責任者	名古屋掖済会病院 臨床工学部 主任 中井浩司
研究の概要	<p>IABP(大動脈内バルーンパンピング)は、心臓のポンプ機能が低下する心不全や、心臓の血流障害を起こしている患者様に対して、カテーテルを胸部下行大動脈に入れて、心臓の拍動に合わせてバルーンを拡張・収縮させて心臓の圧補助を行う補助循環装置です。</p> <p>この装置は集中治療室で用いられることがほとんどです。</p> <p>今回の研究では IABP を用いた治療を行っている際に記録されているデータを利用して、IABP の至適な設定を検討します。</p> <p>この内容には氏名・住所といった個人を特定できるような情報は含みません。</p>
実施の期間	2018年 3月 1日 より 2018年 9月 1日 まで
研究対象	上記の期間に、当院にて IABP を用いた治療がおこなわれました患者様が対象となります。